木とコンクリートとガラスの積層フォリー

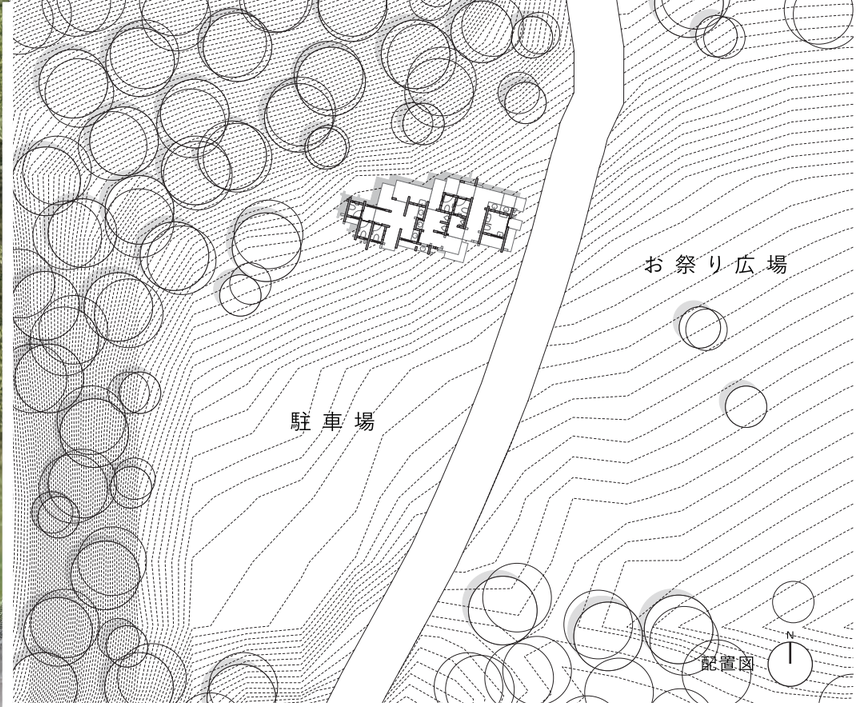
敷地となる立田山は集塊岩でできた孤立的な火山でありながら、
道路を挟んだ向かい側のお祭り広場も相まって
山というよりは緩やかな丘陵の様相を呈している。
そんな岩片が集積、積層して形成されている丘のような立田山の
あり方を、そのまま建築として立ち上げたいと思った。

木材を積層させた集成材、CLTを主材としつつ、汎用的に公衆トイレの
素材として使用されるコンクリートブロック、ガラスブロックを
織り交ぜながら積層していくことで、一義的でないハイブリッドな
立ち現れ方を目指すと同時に、以前からこの場所に存在して
いるかのような休憩できるフォリーの雰囲気を目指している。

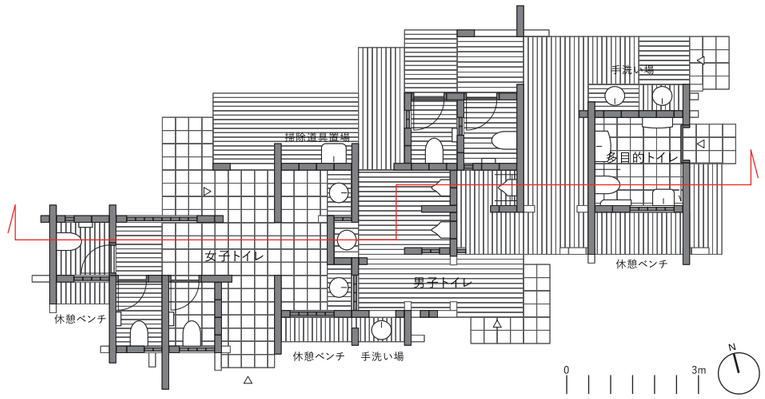
集成材、CLTは周辺との調和や温かみを、コンクリートブロックは公共で
ありながらどこまでいっても個人空間である公衆トイレに安心感と重さを、
ガラスブロックは暗くなりがちな空間に明るさと軽やかさをもたらすことで、
新しい象徴性を獲得することができるのではないかと考えている。

駐車場から建物全景を見る。

道路上空から建物全景を見る。

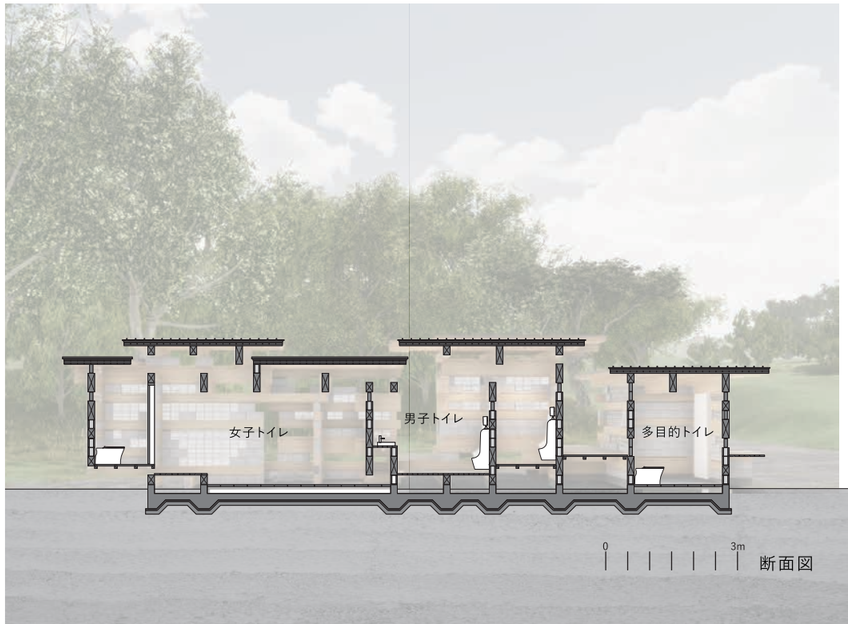


配置図



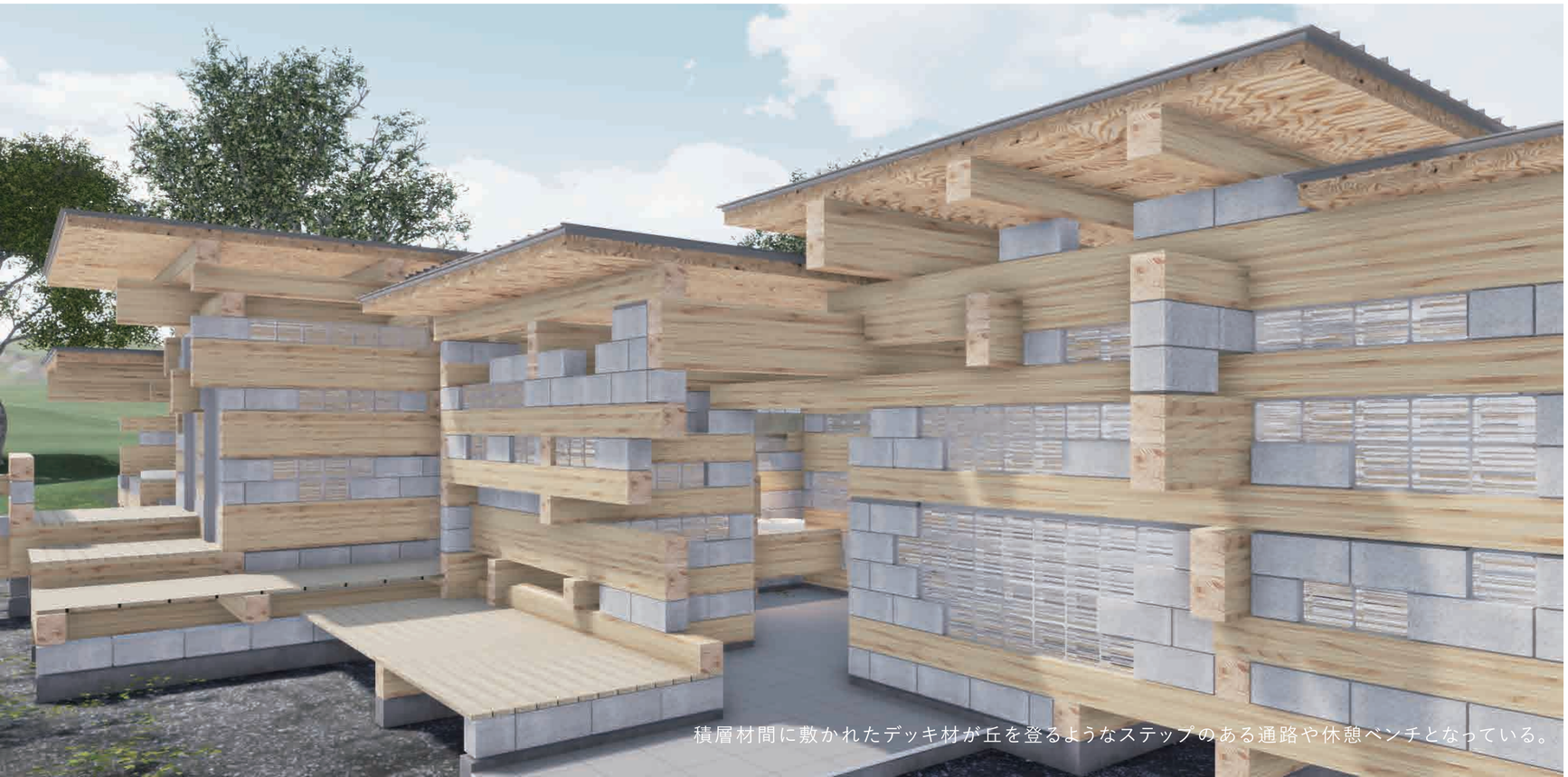
平面図

男子トイレと多目的トイレ間の通路を見る。



断面図

道路から建物全景を見る。多目的トイレは入りやすいよう道路に面している。

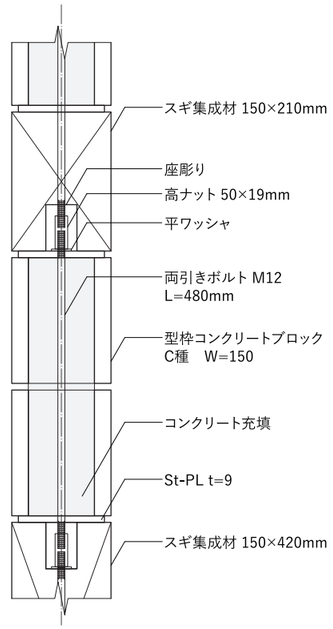


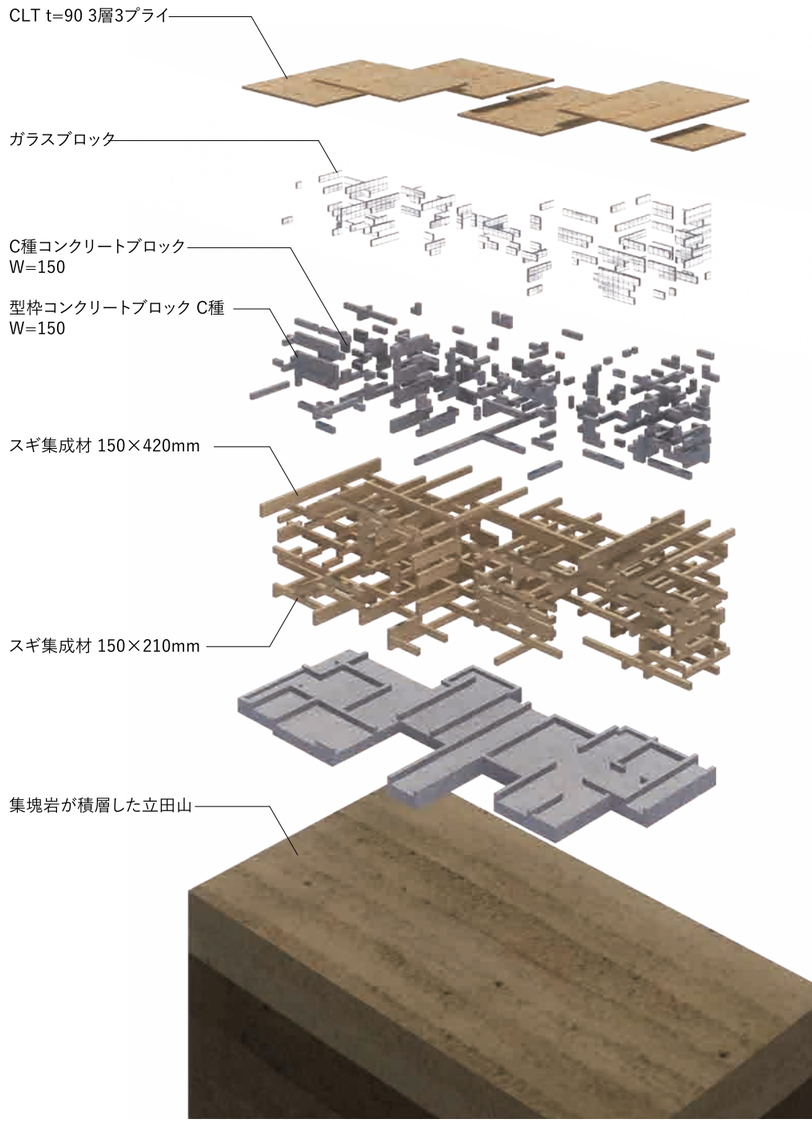
積層材間に敷かれたデッキ材が丘を登るようなステップのある通路や休憩ベンチとなっている。

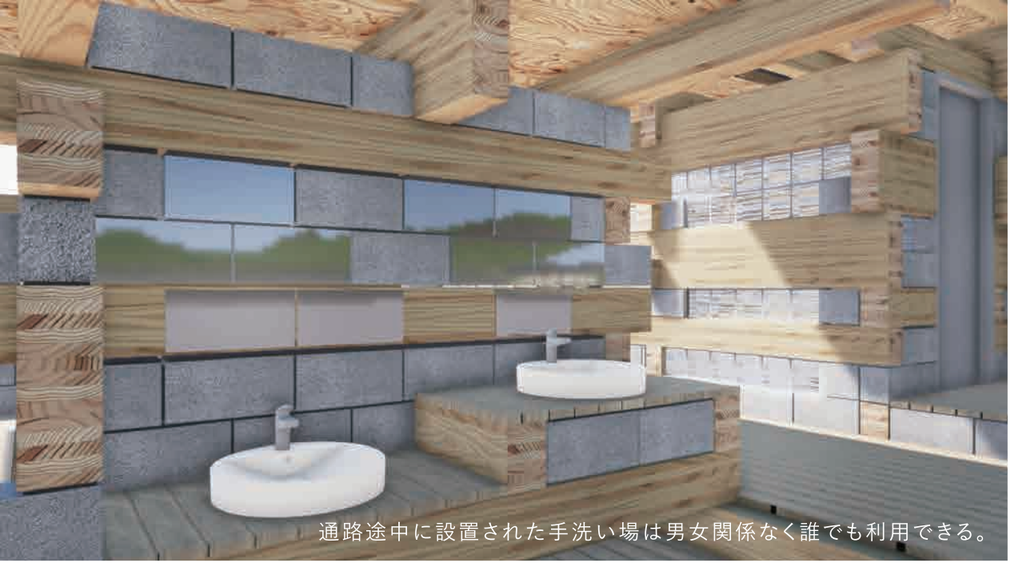
■構造
コンクリートブロックについては、圧縮力を受ける部分には型枠コンクリートブロック、それ以外の帳壁部分には普通コンクリートブロックやガラスブロックを用いることで、構造的合理性と意匠的合理性の双方を担保している。

■設備
ガラスブロックによる自然採光で照明負荷を低減するとともに、集成材間にブロックを積まず抜けをつくることで自然換気を促している。

■施工
素材を地元県産材を利用した集成材や汎用材であるコンクリートブロック、ガラスブロックのみとすることで経済的、施工的な配慮をしている。






通路途中に設置された手洗い場は男女関係なく誰でも利用できる。

自然採光により明るい空間となるトイレスペース。

ある程度の広さとプライベートが確保されている女子トイレ手洗い場。

開放的でありながらプライベートも担保された男子トイレスペース。

夕方以降も明るく周辺地域を照らしてくれる。